



# こどもを危険から守ろう！～事例から学ぶ～

保育中の事故でこどもがケガをしたり、死亡したりするというニュースを目にすることがあります。そのような事態を未然に防ぐため、事前にどんな対策ができるか考えてみましょう。



## <過去に起こった事故の事例>

- ・午睡中のうつぶせ寝により死亡(3か月男児)
- ・苦手な食材が口に入り、体をのけぞらせるようにして嫌がる素振りをした直後につまらせ、窒息により死亡(1歳男児)
- ・スズランテープで開かないようにしていた開き戸を無理に開けようと引っ張り、棚がこどもの上に転倒して頭部を打ち出血(3歳男児)
- ・ブロックを持ったままよろけて転倒し、棚の角に額をぶつけ裂傷(1歳女児)
- ・利用者宅でのシッティング中、こども3人で入浴していた際に、湯桶が上眼瞼にあたり裂傷。5針縫うけがを負った(6歳男児)

## 窒息リスク

- ・1歳になるまではあおむけに寝かせる
- ・布団の周囲に布製のものやひも状のものを置かない
- ・食事の形状は月齢に合わせ、姿勢や与えるタイミングにも注意する
- ・泣いている時や眠そうな時に食べ物を与えない

## 誤飲リスク

- ・お菓子やペットボトル等の包装フィルムはすぐに処分する
- ・こどもが触れるもので、簡単に電池が取り出せそうなものがないか確認しておく
- ・医薬品や洗剤などはこどもの手の届かないところに置く

## 転倒・転落 リスク

- ・家具類にストッパーやコーナーガード、カバー等を設置して安全対策を行うことを保護者に促す
- ・ベランダや窓の近くに踏み台になるようなものを置かない
- ・ハイチェアの安全ベルトは必ず締める

## やけど・水回りの リスク

- ・入浴中はこどもから目を離さず、入浴後は浴槽の水を抜いておく
- ・洗濯機にはチャイルドロックをかけておく
- ・炊飯器や電気ケトルなどは、コードも含めてこどもの手の届かないところに置く



ここに挙げた対策はほんの一例です。他にも、家の中の整理整頓、こどもの体調管理や着ているものの調整など、意識すればすぐに取り入れられることがたくさんあります。また、事前の備えとして、心肺蘇生法や気道異物除去などの応急手当についても、定期的に実技講習を受けるようにしましょう。大切なのは、こどもから目を離さず、環境も含めてよく観察することです。保護者の協力も仰ぎながら、安全な保育を心がけましょう。